

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.6	
Q1 室内環境					0.40	-	-	3.6	
1 音環境				3.1	0.15	-	-	3.1	
1.1 室内騒音レベル		-		3.0	0.40	3.0	-		
1.2 遮音		-		3.3	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		Dr-40の乾式間仕切り壁採用、他RC壁		3.0	0.30	3.0	-		
2 界壁遮音性能				4.0	0.30	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.20	3.0	-		
1.3 吸音		-		3.0	0.20	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-	3.0	
2.1 室温制御				3.0	0.50	-	-		
1 室温		-		3.0	0.60	3.0	-		
2 外皮性能		-		3.0	0.40	3.0	-		
3 ゾーン別制御性		-		3.0	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-		
2.3 空調方式		-		3.0	0.30	3.0	-		
3 光・視環境				4.3	0.25	-	-	4.3	
3.1 屋光利用				4.2	0.30	-	-		
1 屋光率		バルコニーに面して窓設置 W6.7程度		5.0	0.60	3.0	-		
2 方位別開口		-		-	-	3.0	-		
3 屋光利用設備		-		3.0	0.40	3.0	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 屋光制御		カーテンと庇(バルコニー設置)で制御		4.0	1.00	3.0	-		
3.3 照度		500lx以上で計画		4.0	0.15	3.0	-		
3.4 照明制御		屋光センサー、照明点灯制御及び一部自動調光		5.0	0.25	3.0	-		
4 空気質環境				4.3	0.25	-	-	4.3	
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		全てF☆☆☆☆建材、ホルムアルデヒド以外にも配慮		5.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.3	0.30	-	-		
1 換気量		-		3.0	0.33	3.0	-		
2 自然換気性能		バルコニーを設け開口部を広く確保 開口面積1/11程度		4.0	0.33	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮		-		3.0	0.33	3.0	-		
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		-		3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御		学校施設で全館禁煙運用		5.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				3.5	0.40	-	-	3.5	
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		-		3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応		-		3.0	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画		建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たす		4.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.5	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		-		3.0	0.50	3.0	-		
2 リフレッシュスペース		-		3.0	-	-	-		
3 内装計画		木質系内装やメディアセンターの照明計画		4.0	0.50	1.0	-		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		-		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		-		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.2	0.30	-	-	3.2	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		-		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		-		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		-		3.0	0.22	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		-		2.0	0.22	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		木質フローリング、床塩ビシート		5.0	0.11	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-		-	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		塩ビライニング銅管、硬質塩ビ管かつEは無し		5.0	0.22	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		20年以上		4.0	0.22	-	-		
2.4 信頼性				3.4	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		-		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		節水型器具、雨水利用システム、受水槽に非常用給水栓設置等		5.0	0.20	-	-		
3 電気設備		-		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		-		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		-		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.5	0.30	-	-	3.5
	3.1 空間のゆとり			4.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	各階階高3.9m、一部4.25m	4.0	0.60	3.0	-	
	2	空間の形状・自由さ	内部耐力壁は少ない計画とする	4.0	0.40	3.0	-	
	3.2 荷重のゆとり		普通教室2.900N/㎡にて計画	4.0	0.30	3.0	-	
	3.3 設備の更新性			2.8	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	2.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	3.7
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		圧迫感を与えないデザイン、緑化帯整備、正門からの良好な景観	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	歩道上空地設置、学校内に地域スペース確保、中庭・テラス	4.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	空地率59.8% ビロティなど324㎡程度確保	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				—	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI値0.74 外壁・屋根断熱、low-e複層ガラス採用	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	2.0	0.10	-	-	2.0
3	設備システムの高効率化		ZEBready BEI値 0.49 省エネ空調機器採用	4.0	0.50	-	-	4.0
	集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護			3.8	0.20	-	-	3.8
	1.1	節水	主要水栓の過半に節水コマを使用、節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.7	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	トイレ洗浄水に雨水利用	4.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	路盤の再生材、再生木ウッドデッキ床材、ビニル床材	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装は乾式工法を採用	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.0	0.20	-	-	4.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	ビニル床シート(東リ)用接着剤 非該当	4.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ノンフロン製品 GWP=1	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮		—	4.0	0.33	-	-	4.0
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	緑地を多く計画し、熱的な影響が低減するように配慮	4.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	雨水再利用システムの導入	4.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.75	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	屋外照明(外灯)を適切に配置、学校のため広告物は無し	4.0	0.70	-	-	
	2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	3.0	－	○	○	○	－	－	－	－	－					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		－	○	－	－	－	－	－	－	－	○	－	○	－
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		－	－	－	－	○	○	－	－	－	○	○	－	○
2.4.1 空調・換気設備	－		○	－	－	－	－	－							
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	○	－	－	○	－	○						
2.4.3 電気設備	1.0	－	－	－	－	○	－	－							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		－	－	○	○	－	－							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		－	－	3.0	2.0	－	－	1.0	－	1.0	1.0	－		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	－	－	1.0	－							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0		－	－	1.0	1.0	1.0	1.0	－	－					
3.2 敷地内温熱環境の向上	12.0		－	1.0	3.0	3.0	－	2.0	1.0	2.0	－				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	－		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			○	○	－	－	－	－	－	－					
2.1 材料使用量の削減	1.0		－	－	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			－	－	－	－	－								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○		○	－									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	1.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	14.0		1.0	－	－	3.0	3.0	2.0	1.0	3.0	1.0	－			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		－	－	－	1.0	1.0	－							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		－	1.0	1.0	1.0		－							
3.2.2 砂塵の抑制	－		－	－											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η)	-					
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	-	外壁	-	床	-	
住戸部分	窓システムU値	-	外皮UA値	-	η AC	-	η AH	-
屋光率	4.2%(普通教室)							
自然換気有効開口面積率	9.4%							

3.1.1 屋光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	0.0㎡ /人	病床	0.0㎡ /床	シングル	0.0㎡ ツイン	0.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	2.7 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	40 年					
想定必要間隔	15 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	20 年					
階高	3.9 m					
壁長さ比率	20.0%					
床荷重	2900 N/m ²					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数		101%		建物緑化指数		28%	
空地率	60%	水平投影面積率	42%	地表面対策面積率	74%	舗装面積率	40%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.74	断熱等性能等級	対象外 相当				
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	0.0%	採光を満たす住戸数	0.0%		
		通風を満たす教室数	0.0%	通風を満たす住戸数	0.0%		
		太陽光	49.8kW	太陽熱等	0kW	蓄電池	0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	0.49	無	0.49	オフサイト再エネ有	-	-
一次エネルギー削減率	再エネ有		無			-	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	5.5%				
特定調達品目	路盤材	エコマーク商品	ビニル床材、再生着床材指定の特定期品等		-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)			
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	—		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	216%	隣棟間隔指標Rw 1.19							
地表面対策面積率	130.0%	屋根面対策面積率		22.0%	外壁面対策面積率		2.0%		
見付面積Sb	1,481㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		101.01 m	基準高さHb		6.76 m		
緑地	1,844㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡